

平成16年12月6日現在

千葉県習志野の事案における毒ガス弾等の埋設情報の収集状況について（案）

千葉県習志野の事案における毒ガス弾等の埋設場所に係る情報は下記の通り。

1. 情報収集の経緯

(1) 厚生労働省からの情報提供（平成15年7～8月）

厚生労働省から環境省へ情報（別紙1、2）が提供された。
保有状況及び処理状況を確認した主な結果は下記の通り。

＜厚生省とりまとめペーパー（別紙1）＞

保有場所	保有部隊名等	種類・数量
千葉県習志野市 大久保	陸軍習志野学校	イペリット 不明 ルイサイト 6 屯 青酸 若干

投棄場所	投棄作業者名等	種類・数量
陸軍習志野学校 材料廠付近地下に埋設	陸軍習志野学校教 導隊員	イペリット } 6 屯 ルイサイト } 青酸 若干
千葉県銚子沖に投棄	同上	各種毒物 若干

＜厚生省聞き取り調査票（別紙2）＞

保有場所	種類	数量
陸軍習志野学校（習志野市大久保） 習志野原現自衛隊射撃場北側に疎 開しあり 当時学校は真毒使用場として使用 する。	イペリット ルイサイト	本数不明 檻数不明 約6 屯余と記憶する

廃棄場所	種類	数量
昭和20. 8. 17～20の習志 野学校材料廠員、教導隊下士官に てサラン粉約10 屯を使用し開放 し消毒の後地下に埋設する。終戦 後自衛隊に於て容器一部を発見、 米軍化学兵部隊に於いて徹底的完 全消毒を行い現在練兵場として使 用の筈。	イペリット ルイサイト	本数及檻別不明 約6 屯余と記憶する

(2) 千葉県習志野の事案の取りまとめ（平成15年8～11月）

関係省庁及び都道府県等から提供された情報に基づき、千葉県習志野
の事案（別紙3）を取りまとめ、11月末に昭和48年の「旧軍毒ガス
弾等の全国調査」フォローアップ調査の報告書として公表。

(3) 材料廠の位置の確認（平成15年12月）

文献（別紙4）により、材料廠付近の位置を確認。

(4) 習志野学校出身者への聞き取り調査（別紙5）（平成15年12月～）

習志野学校出身者の証言によれば、毒ガス弾等の処理場所は真毒使用
所（現在の自衛隊習志野演習場）及び特殊弾格納庫周辺（現在の住宅地）
と推測された。

真毒使用所及び特殊弾格納庫の位置を確認（別紙5、6、7）。

2. まとめ

上記の情報収集の結果から、千葉県習志野の事案における保管状況及び処理状況を取りまとめると下図の通り。

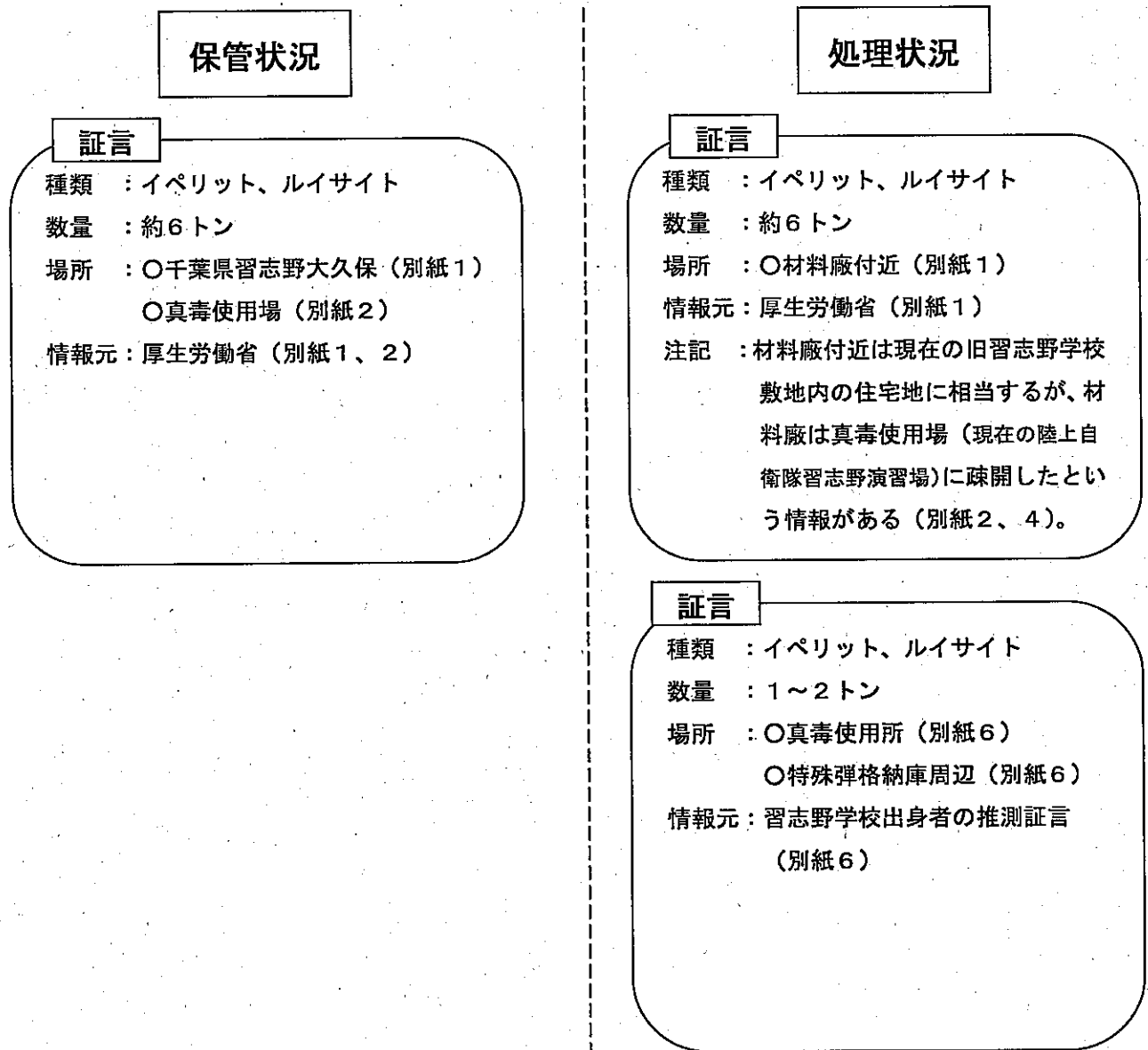


図1 千葉県習志野の事案における保管状況及び処理状況の流れ

情報収集により毒ガス弾等が埋設されている情報がある場所は、下記の通り。

① 真毒使用場

真毒使用場は、現在の陸上自衛隊習志野演習場に相当する。毒ガス弾等処理する際には、保有場所から近く、且つ日頃から毒ガスを使用していた真毒使用場で処理された可能性もある。

② 旧習志野学校跡地内の特殊弾格納庫周辺

特殊弾格納庫周辺は、現在の旧習志野学校跡地内の住宅地に相当する。毒ガス弾等は特殊弾として保管されていたと思われ、その近くに毒ガス弾が埋設された可能性がある。

③ 旧習志野学校跡地内の材料廠付近

材料廠付近は、現在の旧習志野学校跡地内の住宅地に相当する。材料廠は現在の陸上自衛隊習志野演習場に疎開したという情報もあるが、毒ガス弾等が埋設されたという情報もある。

3. 今後の方針

①については、環境調査のうち必要と考えれる調査（物理探査、地下水調査等）を行う必要がある。

②、③については、来年1月から実施する予定の不審物確認調査を行い、その結果を踏まえて適切な対応を講ずる必要がある。

様式1

番号	保有場所	保有部隊名等	種類・数量	資料の出所	備考
7	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	
8	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	
9	千葉県習志野市 大久保	陸軍習志野学校	イペリット ルイサイト 青酸 不明 67 若干	現住所 氏名 職業 取 当時の住所 不明 当時の職業 軍人	

様式2

番号	投棄場所	投棄作業者名等	投棄年月日	種類・数量	資料の住所	備考
9	陸軍習志野学校 材料廠附近地下 に埋没	陸軍習志野学校教導隊員	昭和20年8月	イペリット } 約6屯 ルイサイト } 青酸若干	現在所 氏名 職業 当時の住所 当時の職業	生 無取 不明 個人
	千葉県銚子沖に投棄	同 上	同 上	各種毒物 若干		

陈一松

考 備

- 卷五

氏名元陸市代号(新刊)少佐

化学兵器处理等调查所

提供者	元所属	無職	陸軍習志野学校材料廠長
氏名	現職業		
1. ●●当校に於ける兵器弾薬(毒物を除く)の処理は進駐せる米軍の指示に基づき一切を処理する その関係書類は東部軍兵器部(共生講堂)の返還せり。 化学器材は米軍の指示に基づき校内に於て米軍に引渡す(米軍は横浜港より米国に送還せり)			
2. 化兵衣類は下志津飛行場に於て米軍立会のもとに焼却せり			
元陸軍化兵(騎兵)少佐			

事案名	習志野の事案 (千葉県12-2)
分類	○生産・保有 ○廃棄・遺棄 ○発見・被災・掃海等処理 ○現在の状況 ○その他
資料	・『陸軍習志野学校』1987年〔1〕 ・『習志野市史』第1巻通史編、平成7年・同『習志野市史』第4巻資料編(Ⅲ)、平成6年〔2〕 ・『学校が兵舎になったとき』1996年〔3〕 ・証言〔4〕 ・Target No. 1453 (Narashino) Technical Intelligence Report of Captured Japanese CW Material (Narashino)〔5〕 ・証言(昭和48年調査)〔6〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔7〕 ・『朝日新聞』(昭和26年10月19日)〔8〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告(案)」〔9〕 ・「毎日新聞」夕刊連載記事「化兵のとりで」(平成7年5月17日・5月24日・5月31日・6月7日)〔10〕 ・証言〔11〕 ・『毒ガス戦関係資料Ⅱ』1997年〔12〕 ・『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月9日〔13〕
資料内容概要	千葉県習志野には、昭和8年に創設された陸軍習志野学校跡が存在する。陸軍習志野学校は、毒ガス戦の教育と毒ガス兵器の運用研究を行なう機関であり、毒ガスの交付も行われた。戦後、同地域から毒ガス弾等が発見された事案がある。なお、「千葉県習志野」には、千葉県習志野市以外に千葉県船橋市、千葉県八千代市の市域が含まれる。 ○生産・保有情報 ・毒ガスを用いた教育や研究が行われており、毒ガスが交付されていたことが確認される〔1〕〔2〕。また、特殊なガス室(八面房)跡も確認されている〔3〕。 ・昭和16年に習志野学校で毒ガスに関する訓練を受け、イペリット、ルイサイト、催涙ガス、火炎瓶を扱ったという証言と、昭和19年11月から習志野学校で1週間毒ガスの教育を受け(被災したときの応急措置等)、イペリットの2斗のドラム缶数百本野が積みされていたのを目撃した(射場の裏側)という証言が得られている〔4〕。 ・習志野学校の設備・機材等について記載されている〔5〕。

○廃棄・遺棄情報

- ・終戦時、イペリット・ルイサイトなどが「若干」残存し、「一部は自ら処分、大部分は進駐軍に引渡しその監督下に処分」した〔1〕。

・元関係者の証言として、「終戦時、イペリット缶とルイサイト缶（合わせて約6 t）・青酸ボンベ（若干）を保有しており、これらは学校敷地内において晒粉で中和し埋設し（材料廠付近地下）、青酸は大気に放出した。また、これとは別に各種毒物若干を銚子沖に投棄した」と記載されている〔6〕。

○発見・被災・掃海等処理情報

- ・昭和26年6月28日、千葉県習志野でルイサイト入りの缶3本発見により演習中の自衛隊員14名負傷したと記載されている〔7〕。
- ・連合軍総司令部は、埋設されていた日本軍の毒ガスを、昭和26年10月24日を予定として千葉県習志野の米軍兵舎内で焼却処分すると発表している〔8〕。
- ・昭和35年2月17日から19日にかけて、千葉県習志野で、ルイサイト入りドラム缶1個が発見されたと記載されている〔7〕。
- ・昭和35年3月4日から11日にかけて、千葉県習志野で催涙剤（固体）10kgが発見され、土地の除染と海洋投棄を行ったと記載されている〔7〕。
- ・昭和37年8月21日に、千葉県習志野でイペリット弾8発が発見されている〔9〕。
- ・昭和37年9月に、千葉県習志野でイペリット弾2発が発見されたと記載されている〔7〕〔9〕。
- ・昭和39年11月18日に、千葉県習志野で旧軍ガスボンベ6本（大2本・小4本）が発見されたと記載されている〔7〕。

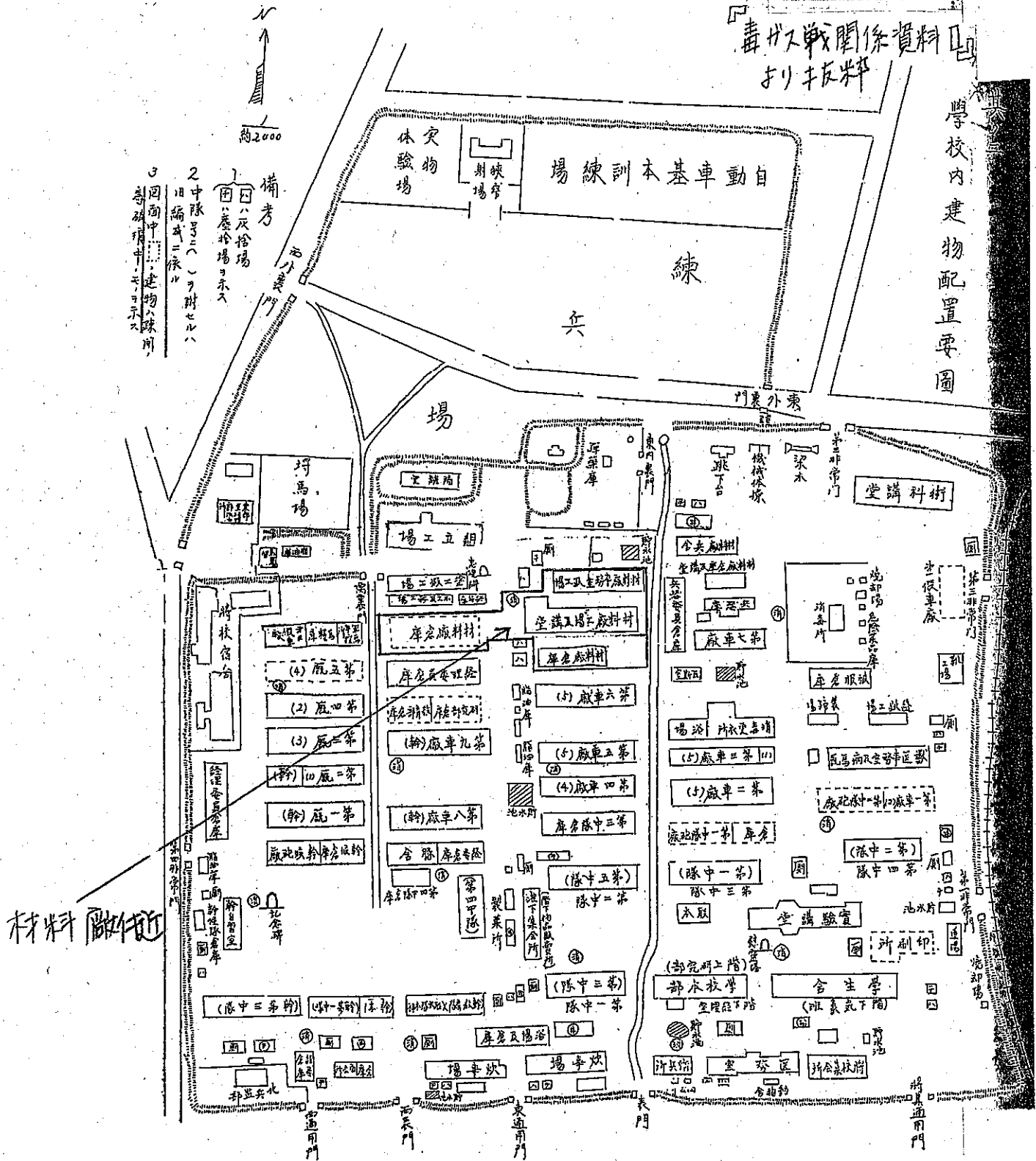
○現在の状況

- ・陸軍習志野学校跡地は戦後、警察署、教育施設、県営住宅、関東財務局宿舍や関東財務局の未利用地となっている〔1〕〔11〕。
- ・平成6年に合同宿舍の建築に当たり地下埋設物の状況について関東財務局の調査が行われ、八角形の基礎及び煙突状建築物などが確認されている〔10〕。
- ・平成15年5月8日に、旧軍習志野学校跡地において、水質調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。
- ・平成15年7月28日に、旧軍習志野学校跡地で、現在、保育所となっている土地において、ヒ素に関する土壌調査が行なわれたが、異常はなかった〔13〕。

別紙 4

毒ガス戦関係資料
おりき反米

學校內建築物配置要圖



聞き取り調査の記入様式

事案名：

陸軍習志野学校における毒ガス処理について（千葉県）

(1) 聞き取り日時

平成16年 3月15日（月）

10時25分 ～ 12時30分

対応者：環境省、財務省、千葉県、船橋市、習志野市

(2) 情報の受信方法

☒ 面会 ☐ 電話 ☐ ファクシミリ ☐ 電子メール

その他：（ ）

(3) 情報提供者の連絡先（プライバシーに留意して対応すること）

情報提供者に関しては、ご本人からではなく、 から確認させていただいた情報である。・氏名：

・生年月日：明・大・昭 年 月 日

・年齢： 歳

・性別：☒ 男 ☐ 女・自宅住所：〒 ・自宅電話：

・勤務先名：

・勤務先電話：（ ）

・携帯電話：（ ）

* 聴取記録の保存に際しては、個人情報等に留意すること。

(4) 内容はいつ頃の時期の話か

昭和・平成18年10月18日～昭和20年8月26、27日

(5) 情報提供者の当時の職業等

- ・ 当時の職業 : 軍人
- ・ 当時の配属地名 : 千葉県習志野市
- ・ 配属部隊名 : 習志野学校幹部構成隊
(昭和18年10月18日に満州中隊から配属)
- ・ 当時の地位 : 区隊長、中隊長
- ・ 戦友会もしくは当時の状況を知る同僚等に関する情報
当時の状況を知る同僚は、存命者3名
 - ① 材料廠事務官 : [redacted] ([redacted] 在住)
 - ② 軍医 : [redacted] 才
(陸軍習志野学校 P486、487 に記載有り)

(6) 情報提供内容の区分

- ① 終戦時における旧軍毒ガス弾等の
保有 ・ 廃棄
- ② 戦後における旧軍毒ガス弾等の
発見 ・ 掃海 ・ 被災
- ③ 旧軍毒ガス弾等の
放置 ・ 隠蔽
- ④ その他の場合は概要を記載

(7) 提供された情報の内容

- ① 本人の 直接行為 ・ その行為の目撃 ・ 伝聞 なのかを確認
 ご本人の推測
 ・ 作業者の数：不明
 ・ 作業者の氏名：不明
- ② 製造、運搬、配備及び廃棄等の場合、既に確認されている事実かを確認
 確認済 ・ 未確認
- ③ 廃棄、放置及び隠蔽等の場合
 ・ 埋設、焼却等の方法
 習志野学校は、化学兵器関連の知見を有した人材が多くいたため、毒ガスは下記の方法で処理していると思われる。
 ①ドラム缶から鉄板の上にイペリットを撒き、その上でさらし粉と混合・攪拌し、無害化。さらに、イペリットが充填されていたドラム缶もさらし粉と水で無毒化。
 ②レイサイトは、ドラム缶に充填のまま処理の可能性あり。
- ・ 数（量）
 フォローアップ報告書によれば、終戦時の保有量がイペリット缶とレイサイト缶を合わせて約6 tと記載されているが、そのうち1～2 tを処理したと思われる。
- ・ 形態
 レイサイトは、ドラム缶に充填のまま処理の可能性あり。
 （参考）
 ドラム缶形状：高さ73 cm、直径46 cm、厚さ5 mm
 （レイサイト用ドラム缶は鉛張り）
 ドラム缶重量：約70 kg
 （持ち上げた時の感触であり、体重計等での測定値ではない）
- ・ 毒ガス弾等の種類：イペリット、レイサイト等
- ・ 廃棄等の時期：不明
- ・ 場所
 真毒使用所（射撃場北側）、特殊弾格納庫周辺の可能性あり
- ・ 位置（地図等で十分に確認）
 別紙1、2参照
- ・ 現場の状況（当時）：真毒使用所（射撃場北側）、特殊弾格納庫周辺
- ・ 廃棄、放置及び隠蔽等の深さ（m）
 蛸壺に廃棄の可能性あり。
 （参考）蛸壺の形状：深さ3 m、横穴長さ1 m
 （深さは横穴長さ1 mを含む可能性もある。その場合は、深さ2 mとなる）
- ・ 廃棄、放置及び隠蔽等の広さ（面積）：不明
- ・ 現場の状況（現在）
 習志野演習場敷地内、泉公園周辺

④ 被害・被災の状況

・作業に伴う被害・被災の状況

・本件における戦後の被害・被災の伝聞

・救済・補償等の状況

⑤ その他

対応者記入欄

環境省記入欄

別紙2



新習志野原野習

教育の進捗と習わ・資わ
この時期に示された訓令、通達等教育の進捗と
なるものは資料を欠き不明であるが、従来のもの
以外の教範・参考書は次のとおりである。

(瓦斯防護関係)

①瓦斯防護教範

②熱地瓦斯防護ノ参考

③坑道陣地ノ参考(付録、瓦斯防護、火焰防護)

④青酸ニ対スル防護

⑤市民瓦斯防護ノ参考

(火焰防護関係)

①対火焰行動

(迫撃関係)

①二式十二糎迫撃砲教練規定

②密林戦闘ノ参考(迫撃ノ部)

③射撃教範(改定)(十二迫の部追補のため)

(煙関係)

①要地遮蔽ノ参考

(制毒関係)

①制毒隊教練規定

教材関係では資材欠乏時代でもあり、教育用の
燃料も十分でなく、車両は代用燃料車の時代であ
った。

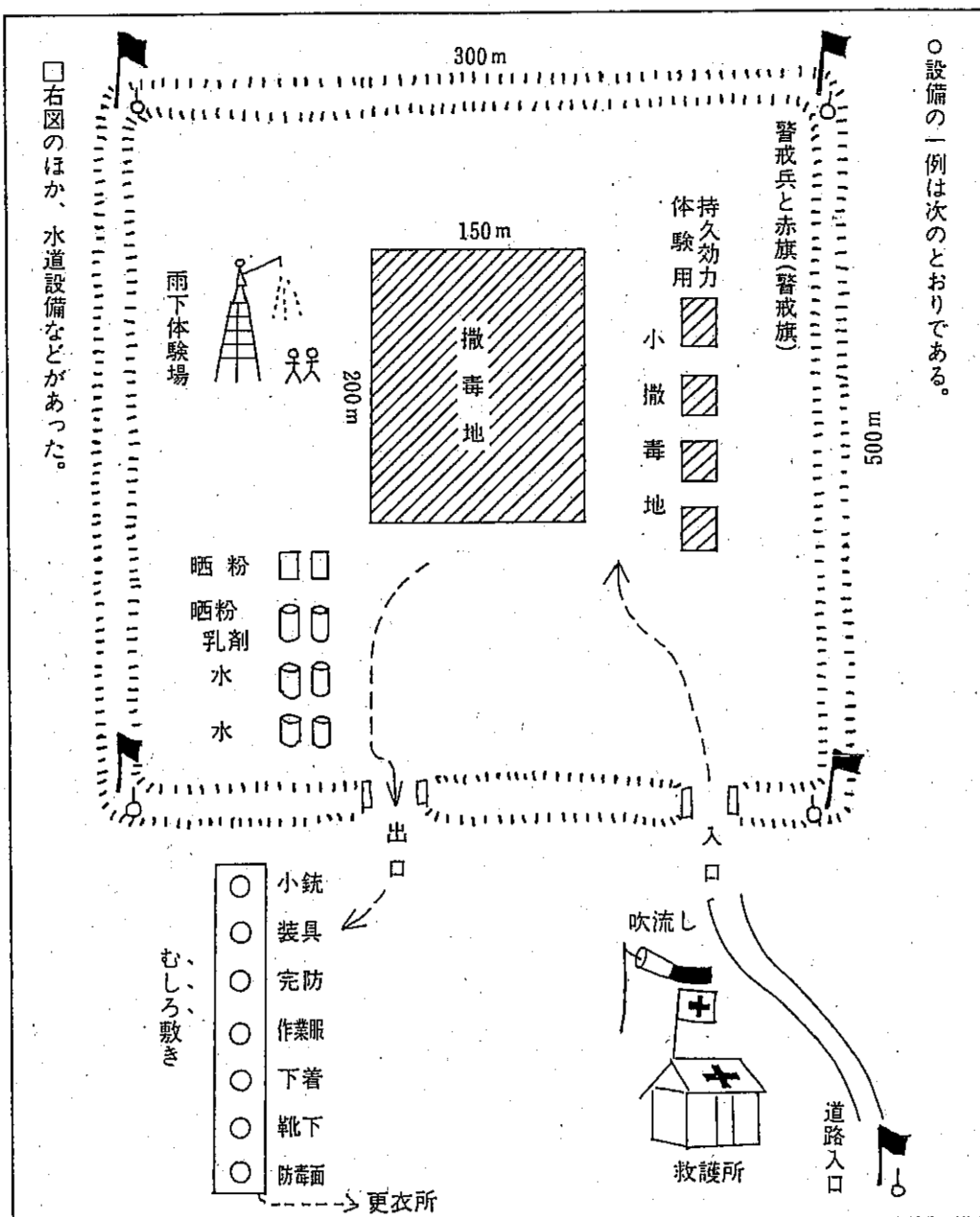
実物演習

「きい剤」などを使用した実物演習(実毒演習)
は従来と同様に二段階あり、基本(各個)訓練と
練成(部隊)訓練がある。基本訓練場は習志野原
の一隅に設けてあり、部隊訓練場は王城寺原、赤

地境が設けられていた。練達した教官であった山
根正登氏(故人)はこの時期の実物演習場(習志野原)
と実物演習について次のように記している。

○実物演習場は習志野原のほぼ中央、射撃場北側
の平坦な松林の中にある。東西500m、南北300m
で周囲は土堤に囲まれており、僅かに中央部分
が緩やかな凹地状をなし、この区画内のほぼ中

○設備の一例は次のとおりである。



「200kg程度の「きい剤」を撒布した撤毒地を構
成し、搜索、検知、除毒、通過など各種の基本
動作の訓練を行なった。

○実物演習場を利用して行なわれた教育課目の一
例は次のとおりである(甲種学生の場合)。

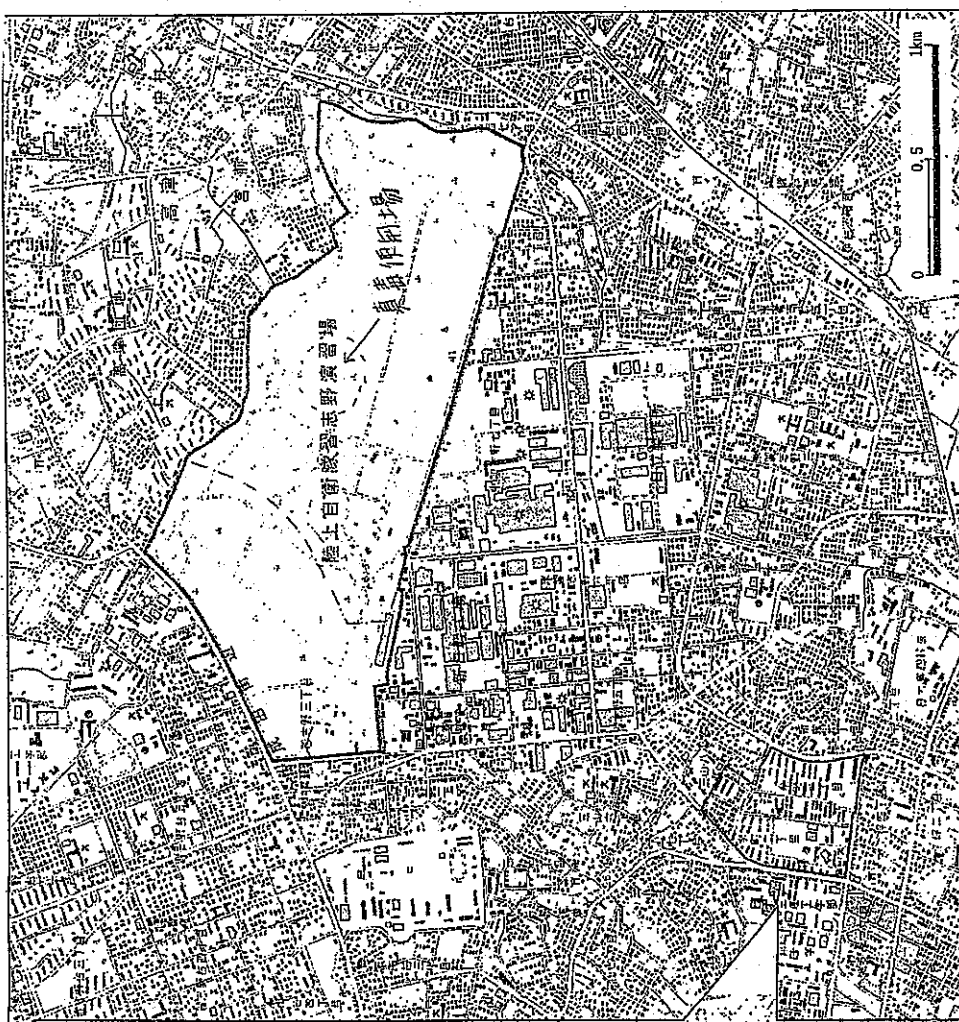
- (1)撤毒…手撤又は車撤
- (2)搜索…撤毒地前後縁の搜索(各種風向、夜間)



旧軍施設（昭和23年11月撮影の空中写真で残存を確認した建物）

陸軍習志野中学校跡地境界線

凡例：



1. 習志野演習場

場所	年月日	発見	被災	処理
習志野演習場	昭和26年6月28日	ルイサイト（ドラム）×3	隊員14名	米軍除染
	昭和35年2月17～19日	ルイサイト（ドラム）×1		空挺、1師団が処理
	昭和35年3月4～11日	催涙剤（固体）10kg		空挺、1師団が土均除染、海中投棄
	昭和37年8月21日	イペリット弾×8発		

2. 場所不明

場所	年月日	発見	被災	処理
米軍兵舎	昭和26年10月24日	埋設されていた日本軍の毒ガス		米軍兵舎内で焼却処分
習志野	昭和37年9月	イペリット弾×2発		
習志野市	昭和39年11月18日	旧毒ガスボンベ6本		第1武器隊がコングリット砲射、海中投棄

これ以外に、元関係者の証言として、「終戦時、イペリット缶とルイサイト缶（合わせて約6t）・青酸ボンベ（若干）を保有しており、これらは学校敷地内において晒粉で中和し埋設し（材料廠付近地下）、青酸は大気に放出した。また、これとは別に各種毒物若干を銚子沖に投棄した」と記載されている。